

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス アソビバ		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 16日		～ 2026年 2月 6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 28
○従業者評価実施期間	2026年 1月 16日		～ 2026年 1月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 4日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	大型商業施設（アピタ新潟亀田店）内に事業所があることで、色々な経験や体験機会（買物、イベント、他者との関わり、共用トイレ、エレベーター）を提供することができている。また、土曜、祝日、長期休暇中にも、午前は外出活動を実施しており、事業所の外での体験も提供することができている。	土曜、祝日、長期休暇中の午前中も外出活動を実施しており、商業施設内だけの体験ではなく、事業所外での体験も提供することができている。 また、商業施設内の散歩や買物、お店の見学なども希望があればすぐに応じることができる。	臨機に外出先などを変更して活動することができるものの、1か月などの予定で行き先をご利用者へお伝えすることができると、より見通しをもち、楽しみにしてご利用いただくことができるため、早めの行き先決定も取り入れていく。
2	「とことん好きなことをしよう！」を特徴として活動しており、ボール遊びやトランポリン、バランスボールで体を動かしたり、スノーズレンの光で癒されたり、宿題をしたり…しながら過ごすことができる。	全てが自由時間ではなく、朝の会やおやつ時間、外出活動、プログラムを設定する時間（ゲーム等）も設けながら、集団での活動も身につけながら活動できるようにしている。	やりたいことを伝えやすい環境づくりとともに、なかなか伝えることができない、伝えることが難しいお子さまも伝えやすくなるための工夫やツール（写真カード等）を取り入れていく。
3	紙媒体の使用ではなく、LINEやインターネットで利用できる連絡帳を使用することで、いつでもどこでも連絡や確認、情報共有することができる。	連絡帳での発信だけでなくLINEやInstagramも活用し、利用時の様子を写真でも発信することで、ご家庭とはまた違った様子を見てもらうことができている。	Instagramがイベントや行事の時の発信が多くなり、保護者側に様子が伝えきれていないとのアンケート結果もあったため、Instagram更新時には連絡をしたり、日常的な遊んでいる様子も発信していけるとよい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	大型商業施設のテナント一画分での事業所展開のため、空間を細かく分けることができず、色々な遊びが混在しているような状態の時がある。	好きな遊びができている反面、色々な遊びが展開されてしまう場面がある。パーテーションなどで区切るものの、どちらかが譲り合いながら空間を使う形になっている。ただ、その反面で、ワンフロアだからその遊び相手以外と関わることができ、社会性やコミュニケーションも身につける機会となっている。	色々な遊びが混在してしまうような場面では、時間で遊びを区切ったり、テーブルの配置を変えるなどしながら、引き続き安全に遊べるように配慮するとともに、柵やテーブルの配置の見直しなどを随時実施していく。
2	事業所内にトイレがないため、お店の通路を通って行く必要があったり、一般の来店者と共有のトイレで奥まったところにあるため、怖がってしまうお子さまもいたり、自分だけで気軽に歩くことができない場面がある。	トイレに慣れていないことやエアータオルを怖がっている等の傾向がある。ただ、定期的なトイレ清掃やトイレまでの他者との交流やお店のトイレに慣れることができる…というような良い面もある。	トイレの時だけでなく、お友だちと一緒にいたり、遊びの延長で寄ってみるなどしていきながら少しずつ安心して行ける場所となっていけるようにする。
3	子ども達からも遊んでくれる友だちのような職員となっているなど安心して自分が出せるような関係作りができているものの、遊びではないような事業所外などの場面でも同じように職員をあだ名などで読んでしまっており区別ができていない時がある。	子ども達からも遊んでくれる友だちのような職員となっているなど安心して自分が出せるような関係作りができている強みを活かしながらも、どういった場面では切り替える必要があるのかなど明確に伝えきれていない部分がある。	事業所から外に行くような外出活動の場面を作り、どのような場面ではあだ名ではなく名前と呼ぶ方が好ましいのかを確認したり、振り返るような時間を設定していく。